


談話会通信 No.46

東京蜘蛛談話会



今年も日本は梅雨入りした。深緑の葉が、六月の雨にうたれ
い、どうさえた、ている。あと1ヵ月もすれば、太陽がゴウゴウと
焼ける真夏だ。そして、楽しい談話会恒例の令節。例年
より2~3週間、成長のおくれしているクモたちも、大いに成長
する季節だ。皆よし、外へごよう。そして、真、黒には、クモ
を観察しよう。

... 新入会員の方ごよ。よろしく...


・鶴田 明子 〒250 小田原市 板橋 565

・観察・採集会のおしらせ。

日時：7月15日(日) 午前10時集合

場所：柵形山 (雨天決行)

(小田急線、向ヶ丘遊園駅、遊園地側に下車)

お弁当・雨具などお忘れなく!

お問い合わせ・連絡は、松浦祐司(03-392-9962)まで

夏合宿について。

期日：7月29日(土) ~ 7月31日(月)

場所：内浦山 県民の森

(国鉄線 守房小湊駅より 徒歩 40分
バス 10分)

宿泊場所：千葉県守房郡天津小湊町内浦 3228

tel. 04709(5) 2821.

参加と希望される方は、筆書きか電話で、7月15日まで
に、事務局 松浦まで、連絡下さい。

合宿場所について詳細をお知りになりたい方は、

浅間茂 (0471-57-1797)まで、連絡してください。

クモのお便り

くもご一す。



昨年入公された。
東京の牧孝匡さんからです。

① アシダカグモの歩脚自切

通信44号に傷ついた脚を、自らきったクモの記事がありました。私は5年ほど前に、アシダカグモの亜成体(古)を手に入れましたが、飼育容器に移すとき、にびられてしまいました。すぐにとりおさえましたが、右の第2・3・4脚を損傷させてしまい、特に第3・4脚は、基節と、転節の間でぎれ、さらに第2脚も体についてはいるものの、歩脚としての機能は果せない状況らしく、クモは、残りの5本で体をささえていました。

しばらくして、様子を見るため、容器をみると、クモは、ガラス製容器の垂直面に、静止していました。脚が6本と5本と、なっています。そして、クモが細長いものをくわえているので、よくみると、それは傷をうけたものの、切りとられるにはいたらなかった第2脚めの脚でした。実際に脚をとるところは、みられませんが、たしかに、体につけていたのだから、傷ついたことを知って、自ら切りすてしまったのだと推測します。

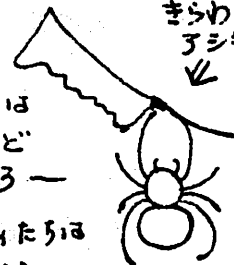
そのうえ、食べてしまったことには、ややおどろきました。その後、脱皮を行ない、失われた3本の脚は、他の歩脚に比して、弱々しいながらも、再生しました。

② 脱皮

歩脚を食べたアシダカグモは、それから34日後に、脱皮して、成体となりました。ガラスケースの壁面に糸をかり、歩脚をそこへかけます。そして、宙づりの、あぶむりの状態で、頭胸部後部より、ぬり始め、全身がぬりこやきました。生ぬれは、右第2・3・4脚も再生されました。体表の色は青緑色でしたが、後には、か色となりました。クモの脱皮をみるのは初めてでしたが、脚の再生は、大変、見事でした。

以上、談話会通信の記事をみて、それとに分、にたことをおぼい出しましたので、かいてみました。

特に学生隊に
きわめている
アシダカグモ。



今の人には
切腹など
ごきせろー
でもおたは
骨がみえ
まてきしんごー

勇気があつてー
入道隊よ、強くゆれ!

山形山



採集・観察会

井上房板

少しお天気が心配は
5月23日の日曜日の午前
10時に何ヶ所を観察の
に集ましました。この日
は、小澤慎一郎さん
佐藤田幸一さん、池田
運沼亮己さん、小池
林秀幸さん、私の10名
です。

線路を渡たり、ハルジョウ
の花が咲いて見つけたり、
その近くでオニグモの卵
ズグロオニグモの卵を
し湿っぽいのと目を
わきとクサグモの子
網をばこりまして、また
一方に目をうつすとウズ
グモの子が網をばいてい
ました。そして、もしか
たらカネコトタテカ
うなところ、よく見ると
ながら、家主はみつかり
せんでした。一見よく見
いかわかつた。どこの
網、ちよつとふれると、
かります。あと一回脱
と成体になるゴミグモ
いました。そのとほりに
同じような網、ゴミグモ
体がいきました。そして
グモ。その横を見ると
ゴミグモがいきました。

イロハシリグモの子が
葉の上で一休みして
ました。またまた、これ
が大きいほうでした。

人家が夕ぐほりほじめ
たところ、その近ぐモ
ヒラタグモの葉が
まかあらわれま
は成体と幼体
と奥にいきま
暗いところ
でヤマシロオニグモ
見つけました。

またサシ奥には
サの葉のほいたところ
でグモがいました。また、
上に目を向けると、
ハグモが一休みして
た。また他の方へ目を
ますと、そこにはサツ
グマシがいきました。ま
で緑色ではなく、本
緑色でした。

そして、もうそうそう
うところ、ウロコア
がいました。亜成体
してササの葉をみ
コハエトリグモ
いました。ムサア
(成体、幼体)か
した。ツリがネ
アサヒエビグモ
かいました。

ちよつどお昼頃
お昼が食終り
そこウロコア
がウロコア

また、少し奥にいさますと、か
みうけたところに出ました。
このわきをみますと、バラギ
ヒメグモ(幼)がいました。そし
てピーティング開始カバキコサ
グモが出てきました。またデー
ニツ、エトリグモ(♀成体)、
シモフリミジングモ(♀成体)
など出てきました。

少し歩くと常緑樹のあると
ろに出ました。一方はかけに
行ってあり、そこにはキハダ
カニグモとカサミグモがい
いました。もう一方の方にはカ
ラスハエトリがいました。湿
ったところにはいりますと、そ
こにはオナカグモがいました。

また奥にはいりますと、ちやう
ちやうと流れている小川は
川があるところに出まし
た。そこには、ヨリメグモが
いました。網は不規則網
でした。そのあたりにマネ
グモも出ました。

少し歩きますと田んぼのあ
るところに出ました。そこには
ショウガタコがネグモとメガ
ネドヨウグモがいました。

また歩きますと、湿った
湿地のようところに出ま
した。そして登り坂を登っ
ていきました。少し暗いところ
にいました。そこにはコアシ
ガカがいました。

最後に(オ)ニツグモをみる
た。遊園の駅に伺いま
した。

利がたはうついた中での
成績でした。まずまず
の成績だったと思ひます。

次回は7月15日(日)です。も
しかしたウトソファンが見られ
るかもしれません。みはるん
是非、御参加下さい。

・井上房及 氏より



「ホンチ遊び」についての
新聞記事をいただきました。

神奈川県において、最近
にやがに、ホンチ遊びが
ゲームになりつつあるようです。

斎藤慎一郎氏はじめ
談話会の皆さんも普及に
つとめましょう。

★家族連れや観光客でに
ぎわう山下公園で三十日、
横浜ホンチ保存会(佐藤秀
夫会長)がホンチの採集と
観察の会を開いた。
「ホンチ」は横浜に古く
から伝わる、二匹のクモを
箱の中で戦わせる遊び。三
十五歳以上のハマッ子な
ら、懐かしく思い出す人
も多いはず。昭和三十年代
の半ばごろからは、次第
にすたれていったが昨年、
佐藤さんらが保存会を結
成、古き良き時代の遊びを
残そうと努力している。

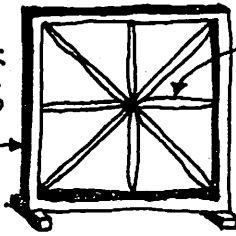
ホンチはハエトリグモの



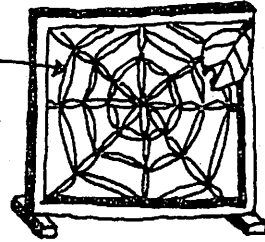
一種で、体長一センチ前後、真
つ黒な体。マサキやハラな
どの葉の上に現れる。シー
ズンは四月から六月初め。
今年、寒さが長引いたせ
いで、例年より現れるのが
遅く、残念ながらこの日は
一匹も採れなかった。
それでも、会場らが持ち
寄ったホンチをガラスの器
「写真」の中で戦わせる
と、珍しい光景にあつとい
う間に人たかりができた。

間仕切り

ちよつと変わったインテリアとして、くもりの果の形をした間仕切りを作ってみました。
 パンテイス、ストッキングを3センチくらいの幅に長く切り、つなぎあわせて、木のわくにとめていきます。庭の木の葉を二、三枚あしらえば、不思議なムードがでてきます。



細長く切ったパンティーストッキングを三センチ幅に繋ぎあわせる。



結び目から内形に張りつける

なんでもコーナー

くらしに工夫を!
 東京の 松本誠治 様よりいただきました。

みはらしも
 (特にカ性会員)の方、チャレンジしてみてください。

かんどう・ごいっし
 おまちしています。

くらしの百科(303):152 (84, 6月号)
 ケンケイ新聞社刊

152



会費受領報告 (敬称略) 6月5日 現在

(57年度) 河又和夫・大久保豊・新井弥生・甲守崇・大河内哲二・相本幸一

(58年度) 井上房枝・佐久間良三・谷川明男・河又和夫・吉谷昭憲・貝碓憲治・古沢笑子・大久保豊・新井弥生・大河内哲二・甲守崇・相本幸一

(59年度) 林俊夫・井上房枝・佐久間良三・谷川明男・河又和夫・吉谷昭憲・吉田哉・大辻桃源・加村隆英・長島忠義・貝碓憲治・古沢笑子・磯島隆・高杯桂子・大久保豊・大野経明・新井弥生・大河内哲二・甲守崇・吉倉真・鶴田明子

(60年度) 大辻桃源・古沢笑子

☆ 寄付 大辻桃源様 400円, 林俊夫様 200円

※ 会費の納入は、おはせめに。

tel.

会計についての問い合わせは、井上房枝まで 045-931-3121

八木沼健夫先生中国を訪問 中国の研究所にKISHIDAIAを寄贈

八木沼先生は、日本のワモ学者として中国から招待を受け、5月16日から6月5日まで訪中された。中国では長春・北京・武漢・長沙の研究所をまわられ、講演するとともに同地の研究者と交流を深めてこられた。この時持参したKISHIDAIAを各研究所に寄贈してこられました。

全行程 文在根氏(1982年から2年
間ワモの研究のため日本に留学され
た方)が通訳として同行し、採集はでき
なかったものの、各研究所で多くの標
本を見てこられました。

八木沼先生は、3週間ごちそう攻め
の大名旅行だったとのことでしたが、
中国のワモ研究者が、予想以上に多い
ことに驚ろかれて帰ってこられました。

(学会の千葉大会で報告予定とのことE. K.K.)

東亜蜘蛛学会第16回大会が 千葉で開催されます。

8月25日(土)~26日(日)に千葉県
厚生年金休暇センターで東亜蜘蛛学
会の大大会が開かれます。学会員以外
の方も参加することが出来ます。大
会参加費4000円です。くわしくは
近藤昭夫氏まで問い合わせください。

東邦大学理学部生物学教室
0474-72-1141 内343

〈ワイズの正解〉

No.45. P2 のオニワモの文章の
答は、(1)イ (2)ウでした。松本さ
んおこたえありがとうございました。

事務局より

この4月より事務局が加藤さんより
松浦氏へかわりました。松浦氏への連
絡はなるべく電話で夜9:30~11:00
の間にお願ひします。(03-392-9962)

会計は高橋さんより井上・小池両氏
へかわりました。口座番号には変更あ
りません。横浜0-1460

会誌原稿・通信原稿の受け付けはか
かりません。

談話会通信 No.46

1984年6月28日印刷・発行
発行責任者：鈴木勝若

東京蜘蛛談話会